

令和5年度 中部厚生センター運営協議会 議事録（要旨）

日時：令和5年11月22日(水)14:00～15:00

場所：上市町保健福祉総合センター2階研修室

1 開 会

委員25名のうち、本人14名、代理3名の合計17名出席

2 挨拶

富山県 守田厚生部次長

3 委員の紹介

4 議 事

中部厚生センターの事業について、配付資料に基づき説明

- ① 厚生センターの事業概要について
- ② 地域高齢者の食の推進について

5 質疑応答

○フレイル予防について

【委 員】

フレイル予防について、上市町でも指導者を養成している、厚生センターの活動は具体的にどんなものがあるか。

【事務局】

低栄養フレイル予防については、市町村、事業所と管内関係機関とリーフレット等を使いどのようにしたら伝わるか検討し、体制を整える事業を実施している。

【委 員】

栄養の点ということでは、どこへ伝えて、少しでも元気に健康で食べられるようにしていけるかが重要。

【事務局】

すべての事業所に管理栄養士がいるわけではないので、連絡会、研修会では、他の職種の方々の支援ができるように管理栄養士に相談できる窓口を作ったり、管理栄養士以外が指導をできるように低栄養フレイル向けの住民向けのリーフレット、指導方法のリーフレットを作成したりしている。普及啓発をしている最中である。

○インフルエンザ対策について

【委員】

インフルエンザの流行予測、家庭での感染防止対策について教えてほしい

【事務局】

対策については、新型コロナも含め、マスク、手洗い等これまで同様基本的な対策をとっていただきたい。

今シーズンの発生状況、流行予測については県として正式なものはないが、現在12月に向かってインフルエンザが流行してきている。これまでのインフルとコロナの関係をみると、ピークはずれており、インフル拡大後、落ち着いたところにコロナの感染が拡大してくると個人的に考えている。

○災害時の栄養、口腔ケアについて

【委員】

高齢者の災害時の栄養の話があったが、高齢者の災害時の口腔ケアについてどのような見解を持っているか。口の中の状態がよくなないと、よい栄養のものを提供されても食べることができない。

【事務局】

災害時は、東日本大震災の頃から、歯ブラシ等について支援されるようになってきたと聞いている。日常の口腔ケアについてもまだ浸透しておらず、災害時に限らず、口腔フレイルについて包括支援センター、市町村でも現在口腔フレイルについて着手をはじめたという状況である。

○公共施設等の水栓の状況について、感染症予防等についての意見

【委員】

上市町は、コロナ対応として公共施設等の水栓を非接触型に変えた。
他市町村の状況はどうか

【委員】

立山町の中学校はすべて非接触

【委員】

滑川市の小学校は一部非接触

【委員】

中学校ではコロナが第5類に移行し、マスクの付け方についての指導について苦慮しているところである。症状があってもつけない生徒、症状がないが暑い時期でもマスクを外そうとしない生徒などいろいろである。感染後はマスク着用することなど、マナーとして伝えていきたい。

6 閉 会